

- ポルシェジャパン、「カイエン」「パナメーラ」等計11車種について、意図せず車両が動き出す恐れがあるとしてリコール 02年12月24日～16年7月19日に輸入した9394台  
オートマチックトランスミッションのセレクトケーブルにおいて、プッシュの材質が不適切な為、強度が不足しているものがある。その為、プッシュが破損し、シフト位置が正しくトランスミッションに伝わらず、パーキングブレーキを作動させていない場合、意図せず車両が動き出す恐れがある。
- メルセデス・ベンツ日本、「Cクラス」等計12車種の油圧カムシャフトアジャスタに不具合があるとしてリコール 09年8月17日～12年11月24日に輸入した3万8445台  
ガソリンエンジンの油圧カムシャフトアジャスタにて、ロック機構の材質が不適切な為、耐久性が不足している。その為、ロック機構が摩耗しエンジン始動時に異音が発生して、最悪の場合、エンジン警告灯が点灯して触媒加熱制御を停止させることで、排出ガスが規制値を満足しなくなる恐れがある。
- UDトラックス、「クオン」の運転者支援制御ユニットに不具合があるとしてリコール 17年10月31日～18年12月27日に生産した1595台  
運転者支援システムにて、改善対策で書き換えた対策プログラムが不適切な為、ABS無しトレーラーの連結時に衝突被害軽減ブレーキが作動しないことを知らせる注意喚起メッセージが表示されない。その為、衝突被害軽減ブレーキの不作動であることを運転者が認知できない恐れがある。
- スバル、「レヴォーグ」「WRX」「フォレスター」の排気管に不具合があるとしてリコール 15年5月9日～18年2月20日に生産した3万2224台  
排気管のエキゾーストパイプフロント組付けで、規定より低いトルクで締結されたものがある。その為、走行振動等により緩みが生じ、最悪の場合、隙間ができ、排出ガスが漏れる恐れがある。
- 日産自動車、「NV350キャラバン」・いすゞOEM「コモ」のPTCヒータハーネスの不具合により火災に至る恐れがあるとしてリコール 12年6月16日～19年2月12日に輸入した2万8485台  
暖房を補助するPTCヒータのハーネス電線径が不適切な為、最大出力で連続作動すると、発熱によりコネクタ端子が変形することがある。その為、そのままの状態で使用を続けると、端子部が高温になりコネクタが焼損し、最悪の場合、車両火災に至る恐れがある。
- 日野自動車、「プロフィア」のエンジン制御コンピュータ(ECU)に不具合があるとしてリコール 17年6月5日～19年8月29日に生産した2万4602台  
ECUの始動時回転数制御が不適切な為、オイルポンプの性能ばらつきやエンジンオイルの量により、油圧が発生しないものがある。その為、油圧警告灯が点灯し、そのままアイドル回転を続けると軸受部が損傷して、異音が発生するとともに、エンジンが停止する恐れがある。
- トヨタ自動車、「ヴォクシー」「ノア」「エスクエア」「アルファード」「ヴェルファイア」の燃料ポンプやシートリクライニングに不具合があるとしてリコール 13年12月20日～18年7月18日に生産した52万2354台  
燃料ポンプについては、ハイブリッド車が対象で、ポンプへかかる電圧が高く、かつモータブラシの組付けが不適切な為、ブラシが傾いて過大なスパークが発生し異常摩耗することがある。その為、燃料ポンプが作動不良となりエンストする恐れがある。シートリクライニングについては、運転者席および助手席のリクライニングロック用スプリングを取付けるスプリングスペーサ成形時の端部形状が不適切な為、リクライニング操作の繰返しによりスプリングがスペーサから外れるものがある。その為、シートバッグを保持できなくなり、最悪の場合、リクライニングレバーが戻らないことに気づかず走行すると、意図せずシートバックが倒れる恐れがある。
- アウディジャパン、「A1」等計10車種の7速Sトロニック型自動変速機に不具合があるとしてリコール 08年8月20日～15年2月5日に輸入した3万5211台  
7速Sトロニック型自動変速機のマカトロニックにて、アッパーハウジングのねじ切り加工が不適切な為、耐久性が不足しているものがある。その為、アクチュムレーターの継続的な油圧変化による疲労の蓄積により、アッパーハウジングに亀裂が発生し、油圧が低下。最悪の場合、駆動力が伝達されず走行できなくなる恐れがある。
- BMWジャパン、「MINI ONEクロスオーバー」「MINIクーペー クロスオーバー」の燃料高圧ポンプに不具合があるとしてリコール 17年6月30日～18年6月6日に生産した648台  
燃料装置の部品管理が不適切だった為、高圧ポンプの保護プレートが装着されていないものがある。その為、衝突事故の際に高圧ポンプが損傷した場合、燃料が漏れ、最悪の場合、車両火災に至る恐れがある。
- トヨタ自動車、「プロボックス」「サクシード」・マツダOEM「ファミリアバン」の4WD車のリヤアクスルに不具合があるとしてリコール 14年8月4日～19年3月6日に生産した5万9671台  
4WD車のリヤアクスルにて、オイルシールの材質が不適切な為、低温環境下での使用により、シールリップ部が異常摩耗することがある。その為、デフオイルが漏れ、最悪の場合、漏れたオイルがブレーキシューに付着して制動力が低下する恐れがある。
- トヨタ自動車、「ハイエース」「レジアスエース」「ランドクルーザープラド」の燃料パイプに不具合があるとしてリコール 19年3月11日～6月4日に生産したディーゼル車6651台  
燃料噴射装置にて、燃料ポンプとコモンレール間を接続する燃料パイプの締付トルク指示が不適切な為、パイプの組付けばらつきにより、エンジンの振動等で締結部が緩むことがある。その為、燃料漏れが生じてエンストする恐れがある。
- アウディジャパン、「Q5」等計6車種のフェンダー内側の樹脂製カバーが走行中に脱落する恐れがあるとしてリコール 17年8月3日～19年2月12日に輸入した4192台  
フェンダー内側樹脂製カバーの取付設定が不適切な為、取付部ががたつくことがある。その為、走行振動等により取付ボルトが緩み、最悪の場合、走行中に樹脂製カバーが脱落する恐れがある。
- フォードモーターカンパニー、「エクスプローラー」のリヤサスペンショントールリンクに不具合があるとしてリコール 10年10月18日～15年12月7日に生産した7402台  
リヤサスペンショントールリンクの設計時強度検討が不適切な為、溶接部の強度が不足しているものがある。その為、金属疲労時により溶接部分が破損し、最悪の場合、走行不能となる恐れがある。
- FCAジャパン、アルファロメオ「ステルियो」「ジュリア」のボディコントロールモジュールに不具合があるとしてリコール 17年8月21日～19年7月23日に生産した1535台  
ボディコントロールモジュールのプログラムが不適切な為、燃料残量を過大認識し、メータパネルの燃料計が正しく表示されないことがある。その為、ドライバーが燃料残量を誤認し、燃料切れでエンジンが停止する恐れがある。

